

令和5年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点（主題）	先生や友達と心を通わせて遊ぶ楽しさを味わう幼児の育成 ～ “こうする？” “いいね！” がうまれる環境を考える～	Ⅱ
------------------	---	---

1 実践のねらい

幼児は友達と関わりを深め、一緒に遊ぶ中で、仲間とやってみたい目的が生まれ、工夫したり協力したりするようになっていく。その過程で、自分の思いを伝え、話し合い、新しいアイデアを生み出したり、友達の考えに共感し遊びに取り入れたりするようになる。

そこで、今年度は、「先生や友達と心通わせて遊ぶ楽しさを味わう幼児の育成」を主題にし、先生や友達とのつながりが深まる過程や、幼児や教師がワクワクするようなコミュニケーションがうまれる楽しい遊びのための環境の構成や教師の援助について考えていきたい。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 各学年、幼児の興味・関心に即した遊びや継続した遊びが楽しめる環境の構成や教師の援助を考え実践する。
- ② 日々の保育記録や事例検討会、研究保育などを通して、友達関係や幼児の育ちを捉え、環境の構成や教師の援助のポイントを明らかにし、次の実践に生かす。
- ③ 保育ドキュメンテーションやホームページなどで、幼児の遊びの様子や育ちを発信し、幼児教育への理解が深まるようにする。

3 実践の内容

- ・ 5歳児の1学期は、教師が仲間の一員として一緒に遊んだり、幼児の発想を実現できるように教師からもアイデアを出したりして、思いを出し合って遊ぶ楽しさを実感できるよう支えた。また、教師が相手の話を聞こうとする雰囲気をつくったり、相手に分かってもらえる言い方を引き出すような言葉掛けをしたりすることで、幼児は互いの思い(理由)を聞いて納得し、相手の考えもいいなと思い遊びに取り入れようとする姿につながった。
- ・ 3歳児の2学期は、遊びながら、何かに見立てたり思い付いたことをやってみたりして、言葉や動きで表すようになる。また、教師や友達のしている楽しそうなことにも興味をもち自分も同じようにやってみようとするようになった。教師は、一人一人の思いに丁寧に寄り添い、共感したり周りの幼児との関わりが心地よいものとなるように温かな雰囲気をつくったりすることが大切であることが分かった。
- ・ 写真付き保育記録（保育ドキュメンテーション）やホームページ等で、幼児の遊びの様子や育ちなどを分かりやすくこまめに知らせ、幼児が自分たちで話し合いながら遊びや行事に意欲的に取り組む過程を理解してもらえるようにしてきた。

4 成果と課題

自己評価結果では「遊びへの興味・関心をとらえ、実態即した指導計画を作成している」の項目で昨年度より高くなった。保護者アンケートでは「自分の思いを動作や言葉などで伝えようとする」の項目で、昨年度よりも高くなっていて、幼児が遊びや幼稚園生活の中で、教師や友達とコミュニケーション力が育ってきていることを保護者の方にも理解されている様子が伺える。また、学校関係者評価では、「幼稚園では幼児が主体的に遊びや行事に取り組む様子を見ることができた」「幼児の考えたことを実現できるように教師がうまくまとめられていた」とご意見をいただいた。

5 来年度に向けて

保護者への幼児教育の理解に比べ、地域への理解は十分ではなかった。そこで来年度は、小学校など他校種との交流や地域との連携がもう一步踏み込んだものとなるようにしていきたい。